



①

那須与一 × 大田原

Nasunoyoichi and Ohkawara

special feature article

那須与一が愛した故郷 大田原

与一が屋島の合戦で祈りをささげた故郷。その祈りは深く、扇の的を射落とすほどの妙技につながる。与一はなぜここまで故郷、大田原を強く思っているのか。与一と大田原の関係に迫る。

生まれと育ち

那須与一は1166年ごろ、現在の黒羽の両郷地区に位置する高館(たかだて)に、父である那須資隆(すけたか)の11人目の子どもとして生まれたとされている。

幼い頃から弓の腕が達者で、兄達の前でその腕前を披露して

は、父の資隆を驚かせていた。

与一は弓の稽古にも余念がなく、日々、大田原の山中で弓の腕前を磨いていた。あるとき、与一が南金丸と湯津上の境の峠で、弓の稽古のためヒバリを射ていたところ、そこを通りかかった西行法師から、無益な殺生を避けるためヒバリの蹴爪を狙って射るように諭されたという。このため、この辺りのヒバ

リには蹴爪が無いといわれ、与一が稽古をしていた峠は「法師峠(ほうしとうげ・ほうしやとうげ)」と呼ばれている。

故郷への祈り

『平家物語』で最も有名な物語のひとつに「扇の的」がある。那須与一の名を今昔ともに轟かせた話である。



那須与一画像(那須家所蔵)



源平合戦図屏風

屋島の合戦の際に敵軍が「この扇を打ち落としてみよ」と挑発してくる。それを打ち落とす役に抜擢されたのが弓の名手といわれた那須与一であり、与一は多大なプレッシャーの中、見事この扇を打ち落としたという物語だ。

このとき与一は、神仏や那須の温泉大明神(ゆぜんだいみようじん)などに扇を打ち落とすことができるよう祈りをささげている。

のちに与一は扇を打ち落とさせたことを神仏に深く感謝した。その感謝のしるしとして、金丸八幡宮(現在の那須神社写真①)の社殿を大改修し、太刀銘弘綱(たちめいひろつな)へ写真②を奉納したといわれている。

与一の墓

那須与一は京都の伏見で亡くなり、即成院に葬られたとされている。それから時代は流れ江戸時代初期、那須与一の子孫が大田原の福原を治めることになったが、その際に与一の魂を弔うため福原の女性寺に墓へ写真③を建てたといわれている。

那須与一と大田原

那須与一にとって、大田原はただの生まれ故郷ではない。与一が自分の心の拠り所とする特別な場所なのだろう。

扇の時の祈り、その成功を感謝した社殿の大改修や太刀の奉納、そして、子孫による墓

の建造。これらはすべて、与一の故郷への愛の結果であり、常に故郷のそばにありたいと思う気持ちの表れなのだろう。

離れていても、常に与一の心は那須にあり、常に故郷を思っていたのだろう。

おことわり

那須与一はその絶大な知名度とはうらはらに、実像について不明な点が多く、また、与一にまつわる伝承は那須地域のみならず、日本全国でさまざまな形で語り継がれています。

今回の特集は、那須与一と大田原のエピソードに限ってピックアップしたものです。

問 那須与一伝承館

TEL (20) 0220



—A Curator's Message— 学芸員からのメッセージ



大田原市教育部文化振興課
前川 辰徳 学芸員

那須与一の故郷である大田原市には、与一やその子孫たちに関わる史跡が数多く残されています。高館や那須神社などの史跡を訪れて、与一や先人たちの活躍に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。きっと与一の見ていた景色に触れることができると思います。